

平成31年2月6日

## 食農学類準備室が新任教員（石井 秀樹 准教授）を採用

食農学類準備室は、平成31年1月1日付で石井秀樹准教授を採用しましたので、ご報告いたします。

石井 秀樹（いしい ひでき）准教授  
（元福島大学つくしまふくしま未来支援センター 特任准教授）

### 【専門分野】

造園学、環境計画、環境福祉論

### 【研究活動の概要・今後の抱負】

2012年3月に福島大に着任し、原子力災害下にある福島の農業再生の支援・研究活動に従事してきました。伊達市小国地区や南相馬市原町区・小高区での水稲試験栽培（2012-）、協同組合間連携による農地の放射能計測とそのマップ化『土壌スクリーニング・プロジェクト』（2012-）、土壌中放射性セシウム濃度の計測手法の評価・改良（2013-）、地質の違いに着目した稲のセシウム吸収リスクの評価（2015-）などは環境・作物中の放射能動態と制御に資する研究です。また住民主体の食品・土壌・空間線量・積算線量の計測の支援と、それに伴う生活再建の取組み（2012-）、菜の花・トウモロコシ・ソルガム等の畑作物による耕作放棄地の再生の取組み（2014-）、耕畜連携・再生可能エネルギーのパイロットスタディ（2016-）などから、復興の可能性を探るとともに、食や暮らしの安全・安心、日本の農業の新しい可能性を探っています。

食農学類では「里山管理論」を担当します。「里山」は人が手を加えることで維持される農林生態系ですが、その機能を発揮するには、自然の特質の科学的解明に加えて、その特質に即した自然の適正な利用や計画に関する研究が不可欠です。それは社会のデザインや実践の要素があり、とてもクリエイティブな分野です。私は課題先進地「福島」で原子力災害からの復興を探りつつ、人間の生存基盤たる自然の本質を明らかにし、その機能を引き出すための“利用”と“計画”に関する教育・研究・実践を進めてゆきたいと考えています。

（お問い合わせ先）  
食農学類支援準備室  
電話：024-548-8212  
メール：nogaku-j@adb.fukushima-u.ac.jp